



会場には多くのタクシー関係者が集まった（13日、新潟市）

乗務員が車いす乗降体験 障害者との意見交換会も

新潟でイベント

北陸信越運輸局と新潟県ハイヤー・タクシー協会（佐藤友紀会長）は13日、新潟市の万代島多目的広場・大かまで、タクシーのホスピタリティ体験会を開催した。



体験会を企画した経緯を説明した竹村部長

「行きたいを行ける社会に」をテーマに、ユニバーサルデザイン教室、乗務員のバリアフリー体験会、障害者とタクシー業界との意見交換会を行った。障害者と法人・個人タクシー業界との関係づくりに運輸局が一役買った全国的にも例がないイベントとなった。冒頭、平井局長は「障害のある方には安全で安心に、何よりも気軽に移動を楽しんでもらいたい。障害者とタクシー業界の信頼関係の構築と強化、互いに満足できるサービスの実現を期待している」とあいさつした。新潟県ハイヤー・タクシー協会の佐藤会長は「タクシー業界は国や県の支援を受けUD車両の導入など取

り組みをしているが、社会の変化に十分対応できていない。イベントを通じ、より良い移動環境を作ってほしい」と述べた。イベントを企画した運輸局の竹村康仁自動車交通部長は閉会のあいさつで、「タクシー需要はコロナ前までには戻り切れていない。利用者にはタクシーの良さを、事業者にはホスピタリティを再度思い出ししてもらいたかった」と企画の意図を述べた。ユニバーサルデザイン教室では新潟市ハイヤータクシー協会の新田文夫専務理事、新潟地域個人タクシー連合会の阿部政信会長らが、バリアフリー体験会では新潟市中央区社会福祉協議会、運輸局のバリアフリー推進課の職員らがそれぞれ講師を務めた。車両はJPNタクシー、アルファード、コンフォート、ハイエースを各社が提供した。乗務員は約40人が障害者とともに教室と体験会に参加。県内外からの見学者も含め約60人が来場した。障害者との意見交換会ではミカユニバーサルデザインオフィス（新潟市）の中村美香社長がコーディネーターを務め、ほとんどのタクシーを、ほとんどのタクシーの斎藤大社長らが登壇した。